



# おぐに議会だより

第10号

平成24年11月10日

## 秋の小国路に響け

発行 小国町議会

編集 広報特別委員会

〒869-2592

熊本県阿蘇郡小国町宮原1567の1

TEL.0967-46-2119

◎23年度の決算を認定 48億7900万円

◎3つの特別委員会

◎町財政の行方は

◎全議員が町政を問う【一般質問】

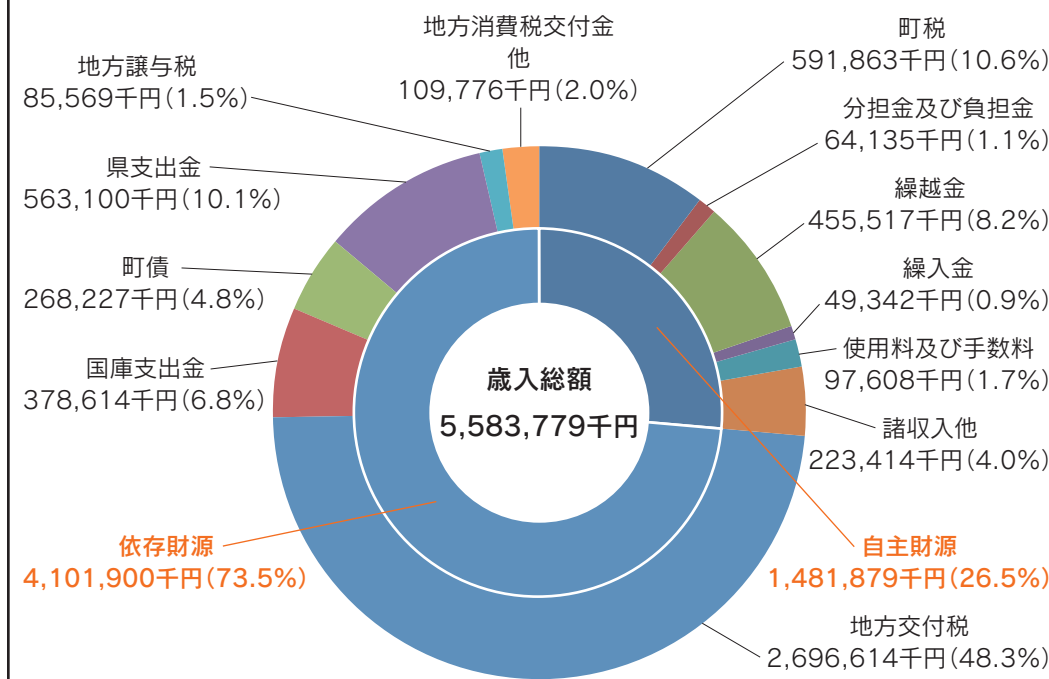
◎シリーズわかりやすい議会



# 決算を認定

## 一般会計

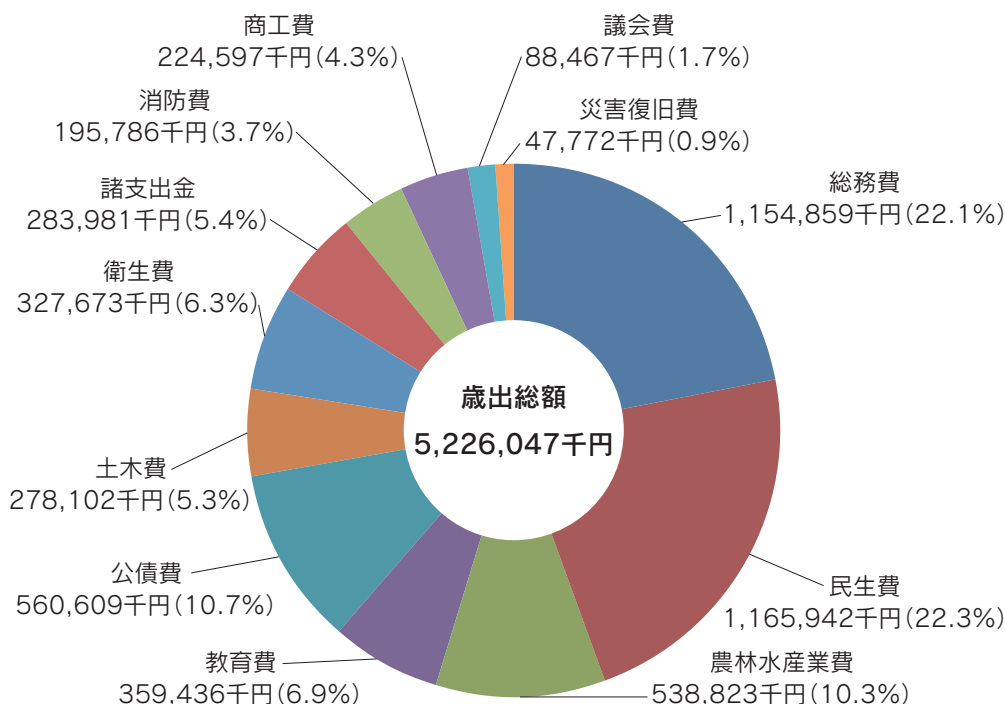
### 自主財源と依存財源



歳入全体の自主財源の割合は、前年比29.5%減少している。これは、前年の通信網整備交付金・中学校耐震補強交付金等が終了したためである。

今後も、このままでは自主財源や国の経済対策交付金も見込めず、積極的な自主財源回復の政策を打ち出すことや、さらなる経費の節約が望まれる。

### 款別歳出の状況



歳出では、昨年より総務費・教育費・民生費・農林水産業費が減少している。これも通信網整備等の終了によるものである。前年と比較して増えたのは商工費である。今後、小国の自然や環境

を生かした取り組み、循環型農業の確立を目指し、小国町の特色を生かした経済発展の取り組みを望む。監査委員の意見書より

代表監査 鎗水 盛春  
議選監査 松崎 俊一

# 平成23年度

## 小国町水道事業会計

| 区 分    | 収入決算額       | 支出決算額       | 差引額       |
|--------|-------------|-------------|-----------|
| 上水道事業  | 1 億 0139 万円 | 7532 万円     | 2661 万円   |
| 簡易水道事業 | 2810 万円     | 4156 万円     | △ 1347 万円 |
| 合 計    | 1 億 2949 万円 | 1 億 1688 万円 | 1261 万円   |

| 区 分    | 22 年度       | 23 年度       | 対前年比     |
|--------|-------------|-------------|----------|
| 経営収益   | 1 億 2712 万円 | 1 億 2298 万円 | △ 414 万円 |
| 経営費用   | 1 億 2408 万円 | 1 億 1501 万円 | △ 907 万円 |
| 経営利益   | 305 万円      | 798 万円      | 493 万円   |
| 当年度純利益 | 305 万円      | 798 万円      | 493 万円   |



水道事業会計について、収支では当年度利益は798万円で、前年対比498万円増収。これは前年より人件費が一名計上されていなかったためである。給水収益は前年対比192万円下回った。収益面においては、水道管敷設替え及び漏水対策を行い、有収率の改善、経費の削減に努める。また、事業の改善を図り、経営効率化に一層努める必要がある。

今後の課題として、水量低下に備えた新しい水源の確保も必要である。

## 特別会計

| 区 分                  | 歳 入          | 歳 出          | 収支額         | 歳出対前年比  |
|----------------------|--------------|--------------|-------------|---------|
| 国民健康保険               | 11 億 6961 万円 | 11 億 1833 万円 | 5128 万円     | △ 3.7%  |
| 老人保健                 | 506 万円       | 14 万円        | 492 万円      | 68.1%   |
| 介護保険                 | 8 億 8319 万円  | 8 億 4237 万円  | 4082 万円     | 8.0%    |
| 後期高齢者医療              | 1 億 0204 万円  | 9531 万円      | 673 万円      | 0.3%    |
| 地方改善施設<br>住宅新築資金等貸付金 | 94 万円        | 94 万円        | 0 円         | △ 84.0% |
| 坂本善三美術館              | 1465 万円      | 1465 万円      | 0 円         | 30.3%   |
| 簡易水道                 | 799 万円       | 776 万円       | 23 万円       | △ 2.9%  |
| 農業集落排水事業             | 1 億 3724 万円  | 1 億 3635 万円  | 89 万円       | 3.8%    |
| 特別会計総額               | 23 億 2072 万円 | 22 億 1584 万円 | 1 億 0488 万円 | 1.1%    |

国民健康保険の歳出では、前年対比△4247万円であり、この年度も減少している。健康増進による医療費の削減、収入未済額が約4115万円あり、他より突出している。自主財源である保険税の確保が必要である。

介護保険歳出は、前年と比較して6228万円増額となっている。年々増加傾向にあり、高齢者の健康増進に努め、施設利用に頼らない健康の町づくりに努めなければならない。

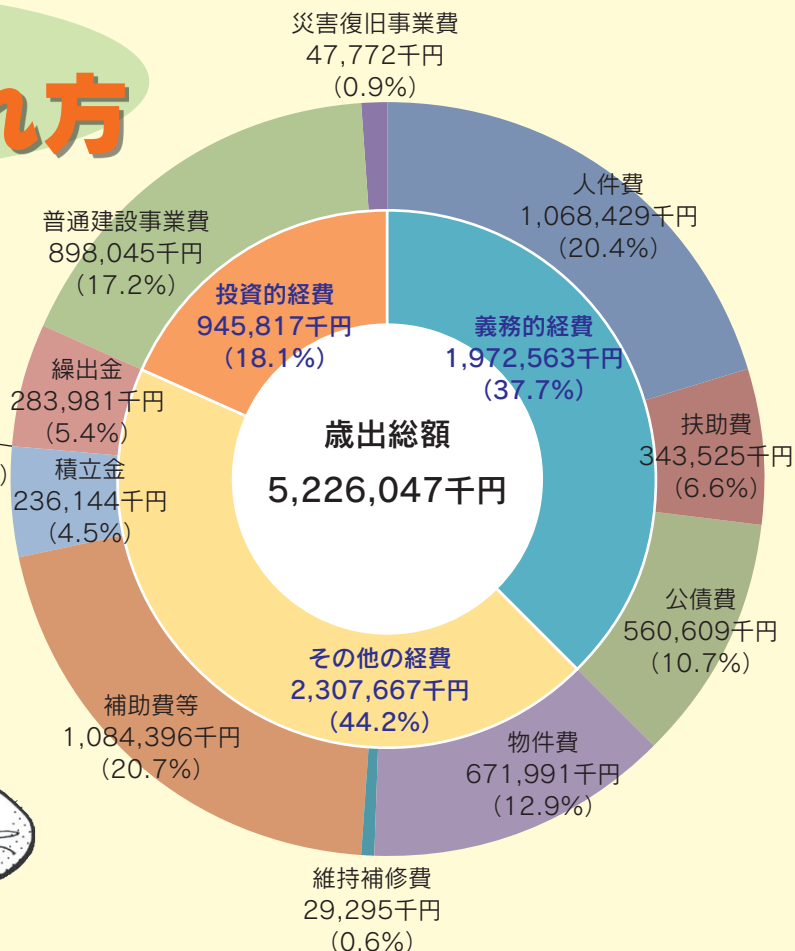
坂本善三美術館では、入館者数も10.6%増加し、入館料も7.3%増加している。今後も入館者増や、美術館として魅力ある企画展を行うよう要望する。

農業集落排水事業では、水洗化率（田原地区95.2%・西里地区70.9%・黒淵地区68.9%）黒淵地区は7年経過しており、更なる水洗化率の向上を望む。

## わたしのまちの お金の使われ方

歳出総額52億2604万7千円の使われ方を性質別に表したのが右の図です。

大きなものは職員等の人件費や町民等への補助金、道路等の建設費です。全体として緊縮財政が続いています。限られた予算ですが、必要なものへはしっかりと予算を組んでいく必要があります。



## 財政健全化審査意見

夕張市の財政破綻後につくられた『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』に基づき、各自治体の財政状況を監査委員が審査するものです。



### 財政健全化比率

|          | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 | 早期健全化基準 |
|----------|----------|----------|---------|
| 実質赤字比率   | —        | —        | 15.0%   |
| 連結実質赤字比率 | —        | —        | 20.0%   |
| 実質公債費比率  | 14.4%    | 13.3%    | 25.0%   |
| 将来負担比率   | 100.6%   | 65.4%    | 350.0%  |

※実質赤字額と連結赤字額はいずれも0円のため、率は「—」で表しています。

数字が大きいほど財政が悪い事になります。上の表の4つの項目の内、いずれかの率が一番右の「早期健全化基準」を超えると「早期健全化団体」となります。早期健全化団体になった場合、財政健全化計画を策定し、計画に基づく財政健全化を行います。

小国町の状況は上の表の通りで、特別心配しなければならない状況ではありません。

# 補正予算

## 災害復旧費1億8970万円に

### ◇一般会計補正予算3億8394万1千円を追加

その他補正予算の主なもの 財政調整基金積立金 1億5千万円  
予防費(4種混合・不活化ポリオ予防接種など)202万6千円



西廻り農道法面の崩落(北河内付近)



林道赤鹿線崩落現場

### ◇国民健康保健特別会計予算2659万円を追加

決算に伴う返還金 2608万5千円

### ◇介護保険特別会計予算1402万7千円を追加

決算に伴う返還金 1069万4千円  
2次予防事業費 252万円(元気クラブなどの経費)  
要支援者向け事業費 334万2千円(配食サービス・予防プラン委託費)

# 条例改正

## 災害時の対応を迅速に

- ◇小国町災害対策本部条例の一部改正 ※大雨等の災害時に、迅速に避難指示等ができるよう体制整備のための条例変更です。
- ◇小国町防災会議条例の1部改正

## 税金の納付が個人別に変わります

### ◇小国町納税組合設置条例を廃止する条例

現在、組長・部長を経由して行われている納税が、来年4月から各個人による納税に変更されます。それに伴う条例の廃止です。



現金による納税窓口の会計管理室



平成24年8月22日

## 平成24年度第2回小国町議会臨時会

# 九州北部災害での被災による災害対策費3456万円の増額

平成24年第2回小国町議会臨時会が行われ、主に今年7月12日に始まった九州北部災害での被災により、町の農業、林業、各土木施設への災害対策や消防費に3456万円の追加補正。また、有害鳥獣防除柵設置事業へ30万円の追加。消防団の操法県大会出場、中学校の陸上九州大会出場や柔道の全国大会の出場へとそれぞれ追加補正されました。

※主に抜粋

平成24年10月10日

## 平成24年度第3回小国町議会臨時会

# 堆肥施設建設、環境モデル都市構想調査費に1313万円の増額

第3回小国町議会臨時会では、小国型循環農業の実現に向け、堆肥舎の建設費642万円。環境モデル都市を目指す調査費としてスマートコミュニティ構想普及支援事業補助金671万円がそれぞれ追加補正されました。

## 平成24年度 市町村議会議員研修会

平成24年10月5日



講師 穂坂 邦夫氏

産山村にて阿蘇一市六町村の議員研修会が行われ、午前中の地方自立政策研究所理事長穂坂氏の講演では時代の流れによる地方議員の役割についての対応力を学び、午後にはパークゴルフ大会で交流を深めました。

## 産業活性化特別委員会

委員長 奴留湯哲宣

本委員会は町のあらゆる面での活性化を図る目的で設置されました。

農業面や観光面で町民の所得向上につながる政策の提案などを議論してきました。すぐに取組みが出来ることは行政に改善などを提案し、実行を促してきました。

活性化の大きな取り組みとして平成20年度より模索してきた農産物直販所も、土地の収得が困難となりストップしてしましたので、内容を変更し、先を見越した作物作りから始めていくことにしました。

薬味野菜など特産物や美味しい作物を作るにより、ブランド化を目指し、加工品の開発、販売促進を図り、所得向上につなげていきます。

まず町民向けアンテナショップをゆうステーション横の農協支所を借り展開する他、堆肥施設を設け、生ごみ堆肥を作り、循環型農業を目指すため町民に

提供し、美味しい作物づくりを推進することになりました。町民の皆様の活用をお願い致します。

また農業経営コンサルタントの武田健所長から小国型循環農業について講演をしていただき、今後の小国の農業の在り方を勉強しました。



アンテナショップ予定地JA出張所



武田健氏による講演

## 風力発電所建設に伴う土地賃貸借契約に関する特別委員会

委員長 時松唯一

本委員会は、上田牧野組合有志一同より出された陳情に基づき設置された百条特別委員会です。10月までに5回の委員会を開き、牧野関係者、役場職員等の聞き取り調査行なうとともに、全委員による現場の確認も行いました。



上田牧野組合の人たちと現場確認

## 学校施設整備検討特別委員会

委員長 北里勝義

老朽化が著しい小国小中学校プール、柔道場と学校給食センター・ランチルームを一体的に建設するため、配置や適正規模、また建設費についても検討を行う委員会が設置されました。



一体的施設建設が予定の中学校プール



## 小国町の観光産業

渡邊 誠次



## いじめ問題の対応は

穴井 帝史

【町長】三湯物語が本年度で終了する。観光面でどのようにとりくんでいくのか。

【町長】三湯物語としての予算の計上はしないが、観光面ではいままです以上に積極的な力を入れていきたい。

【町長】九州北部災害を受け低迷している現在、今後の観光阿蘇として小国町での役どころをどう担っていくのか。

【町長】小国町は阿蘇市、南阿蘇とは違う雰囲気を持ち、阿蘇地区での重要な役割を担っている。小国町の特徴を出していきたい。また同市町村長と議論がある中、これからの位置

づけを話し合っているところ。

【町長】観光振興会に力を入れていきたい。またCMについては大賛成である。

【町長】「おぐたん」については着ぐるみを制作中。いろいろと活用している。

【町長】新しい「ライフウエア産業」の概念が注目されている。小国のツーリズムの学びは時代と直結しているように思う。

【町長】ツーリズム大学については人数が少なくなってきた。いい内容であるから披露していきたい。



【町長】いじめが刑事事件となり、社会問題化している。教育委員会においてもなんらかの未然防止や早期の発見、解決を目指す話し合い等行っていると思う。

【町長】自治体レベルでの取り組みや対応、いじめがあつた場合は組織での対応する準備等、町内の小中学校での実

態調査。対応は。【教育長】従来の定義の変更もあり、緊急アンケートを実施した。学校・PTA・警察・関係団体においていじめ問題連絡協議会を設置。お互いに情報を共有し解決方法を話し合つた。教職員の共通理解で早期発見するよう学校現場では頑張っている。

【教育長】第三者委員会の設置など初動対応の段階で学校・県教委と連携して国の対応等が必要が生じれば検討してほしい。ネットいじめも問題視されている点で情報モラルの教育を強化することも不可欠。学校側は引き続き危機感をもって組織的かつ迅速に対応するよう指導を求む。

【教育長】道徳教育の時間等に十分行っている。

【町長】子ども議会は小国町の課題や将来像を町長と話し合う良い機会。自分たちが暮らす地域について考え、また町政への関心を高めてもらい、町議会の模擬体験もできる。計画状況は。

【教育長】学校と連絡をとり11月20日に予定している。



## 不公正な同和行政は 終結せよ

児玉 智博

【町長】 同和問題がある限りにおいては補助金を支出する。

【住民課長】 旅費157万円、事業費19万円あわせて95%、その他の経費が4%。

【町長】 同和問題は補助金を支出する。補助金の使途はどうなっているか。

【住民課長】 行動費として、1日につき2000円支給している。



【町長】 民間団体の研修に日当を出す事は道理が無いのでは。自分のための研修だから日当は不要ではないか。

【住民課長】 差別を介していく力をつけるために研修に通い学習している。そのための費用として妥当であると考えている。

【町長】 婦人会にも団体補助金が支出されているが80万円である。これに対し、同

和団体へは予算額で200万円、倍以上というのは異常ではないか。

【町長】 婦人会は大事な組織であるが、それを引き合いに出して大きい少ないとは一概に比較にならないと思う。

この問題を取り上げるのは、同和問題の早期の解決を願う立場から。これまでのような同和行政を続けられ、差別は再生産し、拡大され、いつまでも解決しない。来年度予算では抜本的改善を求める。

## 空き家対策・中学校部活動

松崎 俊一



【町長】 先日の火災では、広域消防、小国町消防団、地域の方々により消火活動が行われた。特に消防団は、団員の確保、機械器具の点検、地域の防災や見回り、災害弱者の把握、日頃の訓練、年末の警戒など我々の知らないところで活躍、苦勞している。消防団や地域の方々の不安や苦勞を少しでも軽減するため「空き家



バドミントン練習風景

【町長】 町内の状況の把握を行い、その後、取り組みを考えたい。

【町長】 中学校の部活動は小中での連携があるクラブであれば部活動として認めることはできないか。

【教育委員会事務局長】 現在、野球男子、陸上男女、テニス男女、バレー女子、ホッケー男女、柔道男女



吹奏楽部の練習風景

の体育系(156名)と吹奏楽、美術の文科系(24名)の部活動並びにバドミントンクラブ(19名)があります。

【教育長】 今、部活などの運営は、中学校にとつての大きな問題のひとつ。教職員の配置や体制、予算の確保などの問題もあり、学校側と協議したい。

## 小国町老人ホームの施設計画が必要

奴留湯 哲宣

小国町老人ホームが町の総合計画に入っていない。雨漏りや各種設備の老朽化に伴い、修繕や取り換えが増えていく。しかし、今後の計画も漠然とした計画しかなく、入所者や施設職員も大変である。

まず、建物においては二人一部屋でトイレが多々あるそう。また、廊下も狭く車いすでのすれ違いが困難。他の福祉施設では、一人一部屋で廊下が広く避難がスムーズにできる。

公設での建て替えでは補助金は少なく、建て替えるなら民設の方が補助金、運営においても断然



有利である。だから、この町村も法人化を進めている現状である。職員の現在数は22名だが、17名は嘱託や臨時職員で賄われ、同じ仕事をすのに正職員と所得に倍の格差があり、矛盾が生じている。格差は正しなればならない行政が棚上げになっている。

今後望ましいのは、法人化を進め別の場所に施設の建て替えを行い、入所者が安心して利用できる。職員の格差是正を行い、やりがいのある職場とすることだ。公設を続けるならば、格差是正のため嘱託職員での運営が最善である。

法人化に対しては、小国学園のノウハウがある。

※その他、小国再生エネルギー計画を作成し、多くの補助金活用を要望した。



## 行政全般の課題

時松 唯一



【町長】憲法に守られている。それ以上、それ以下でもない。

【総務課長】一般的には厳しく町民が見ているとの認識が組合にはある。

【総務課長】一般的な方向で検討する。

【総務課長】けやき広場を含めていずれば全面的な整備補修の整備は。

【町長】3月、6月に行った一般質問の確認。夫婦兄弟職員勤務の執行部での話題は。

【総務課長】組合と意見交換し、協力する方向で検討する。

【建設課長】行政業務として調査し、対策を検討する。

【人口の減少は税収が減る。行政をどうスリム化し、地域のニーズに応じたサービスを効率的に行うか、住みたい小国町の実現に住民レベルの議論が必要ではないか。】

も考える。

【阿蘇自然の恵み 総本舗と菊イモクラの関係は。】

【町長】双方に一定の連携があるとの報告を受けている。

【町営住宅入居誓約書は遵守しているか。】

【建設課長】行政業務として調査し、対策を検討する。

【人口の減少は税収が減る。行政をどうスリム化し、地域のニーズに応じたサービスを効率的に行うか、住みたい小国町の実現に住民レベルの議論が必要ではないか。】

【総務課長】データ等を職員に周知。財政が厳しいということとは全職員の共通認識である。

【町長】財政状況は予断を許さない状況が続いている。しっかりとやっていく。



## 農地を誰が守っていくのか

梅木 隆志

【人・農地プラン】により各地区で今後の農業について検討されたと思うが、農業従事者が高齢化する中で、農地を誰が守っていくかという問題があると思う。現在の農作業受託組織はどのようなになっているか。また、作業受託のオペレーターも高齢化してきており、今後のことを考えると、代かき等も含めた総合的な受託組織の育成が必要ではないか。

よる運営に変わっている。その他、個人による作業受託が十数名いる。

受託組織の育成は、今ある受託組織やオペレーターに集まってもらい、現在の問題点等を精査しながら考えていきたい。

【電牧の助成で鳥獣被害にも一定の成果が出てきている。鳥獣対策には冬の間



も電牧の電源を入れるなど、人が住む里山に、鳥獣を入れないような総合的対策が必要だ。専門家を呼んで総合的な講習をしてはどうか。

【町長】農家や町民と、行政が一緒になって勉強していかねければいけない。



一般質問者

## 防災の取り組み

北里 勝義

【今年度、町の地域防災計画が見直されているが、その内容は。また、防災計画や対策において、女性や福祉等のあらゆる視点から検討・検証していく委員会等の設置の考えはな

いか。

【総務課長】今回は、予防、応急対策、ボランティアの活用並びに要援護者対策、避難勧告及び非難準備情報等について見直している。

【町長】防災計画において基準などをマニュアル化し、早い段階で予防し備えるということとは大事である。小国町は災害の多い地域でもあり、検証は必要。検討委員会については考える。

【自主防災組織の



一般質問者

現状と活動に向けての取り組みをどのように考えているか。また、地域防災力強化のため、新しい公共の担い手といわれている防災士の養成の考えはないか。

【総務課長】部長組織の見直しと併せて、組織の強化と防災教育を重要課題として検討したい。また、防災士については、講習会等を活用し育成に努めたい。

【県の業務の一部集約化や事務権限移譲が進んでいる中、県との連携は重要な課題。人事交流を含め、連携をどのように考えるか。

【町長】県は大事な情報や専門的な知識を持っており、綿密な連携を持ちたいと考えている。また、人事交流についても進めていきたい。

## 今後の公共事業

松本 明雄



【町長】景気対策の事業はとにかく急な話が多い。自治体としてありがたい話だが、意見のようにいろんなメニューを最初から作っておくのは非常に大事なことである。

【町長】今後政権が変わった場合、防災、減災に伴う補助率があがることを予測して、耐震性の低い開発センターや老朽化の進んだ保育園等の建て直し計画を立て、補助率が変わったらずに建物建てられるような政策をとってほしい。

【町長】平成25年度の全国ホッケーが隣の九重町等の会場で行われる。杖立、わいた山麓等を宿泊施設としての利用を条件に、林間広場を練習場として提供することを全国のチームに周知、多く



の誘客を図り、小国町での宿泊の増加を考えては。

【教育委員会事務局長】毎年、インターハイには監督、選手だけでも800人以上上きている。アクセスも良好、施設面では人工芝を2面持っている条件が揃っており、PRすれば来てくれる学校があると思う。

## 国民健康保険高額療養費資金貸付基金条例の廃止及び限度額認定証の周知、配布

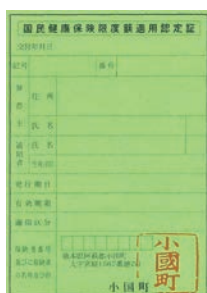
北里 邦治

【町長】国民健康保険高額療養費資金貸付基金の利用状況を見ると、ここ数年の利用者がいない。監査委員からの指摘もあり、基金の取り壊し、及び条例の廃止を検討する時期ではないか。

【町長】内部で協議を行い、条例については廃止ではな

く、現在500万円ある基金を当分の間100万円程度に見直す考えである。

【町長】平成19年度から限度額適用認定書が申請、発行されるようになった。極めて便利でありがたい制度である。本人の入院時に保険証と一緒に提示することにより、退院時の三割負



国民健康保険  
限度額適用認定証

担が数十万、数百万円の医療費が生じても限度額分だけの支払いで済む。制度が利用しやすいように周知の徹底と、申請による発行の方式ではなく、健康保険証と同時に交付にすべきではないか。

【町長】健康保険証との同時発行は様々な事柄も加味し、少し考えたい。条例全般の見直し、廃止については行政内部で今の時代に即した内容に対応していく。



## 小国の未来を拓く農村型環境 モデル都市構想

原山 光成

【町民所得が153万円。県下で下からという現実からどうしたら抜け出せるか。この議会で環境モデル都市の説明があった。これは小国町民の未来に繋がる大きな施策である。もう1回説明して欲しい。

【町長】農村型環境モデル都市構想は、町の総合計画と東北大地震以降、国が打ち出した施策で、環境を保全し、町民生活の向上を目指すもの。この構想にのって、町に豊富にある地熱・水力・風力・バイオなど資源を最大限に使うことで町を活性化していきたい。この構想は国の先駆的実験地域事業で交



一般質問者

付金補助金など非常に優遇される。全国規模の構想で競争は激しいが、町の構想創りと国の認定に向けて挑戦したい。

【町長】この構想の中に地熱利用もある。わいた地域では地熱発電に民間で着手している。町でも支援体制をとったかどうか。また、地熱を現在木材の乾燥に使っているが農業にも地熱を実験的に使っては。

発電については、地域の要望があれば支援していく。また、地域から相談等には応えている。農業への実証は、モデル都市構想の中で検討する。

【町長】小国の河川は、昭和のはじめ、国の施策で水力発電に利用され尽くしている。だが、小国町民の電気料金が1円でも安いわけではない。地域資源は地域で使うべきであり、条例等で考えてみては。

【町長】地域資源は地域で使うべき。しかし、条例等は他の法令等難しい問題も含んでいる。

## 陳情

■地球温暖化に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書の採択について（依頼）

陳情者 全国森林環境税創設促進議員連盟

会長 板垣 一憲

## 発議

■地球温暖化に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書

提出者 奴留湯 哲宣

賛成者 原山 光成

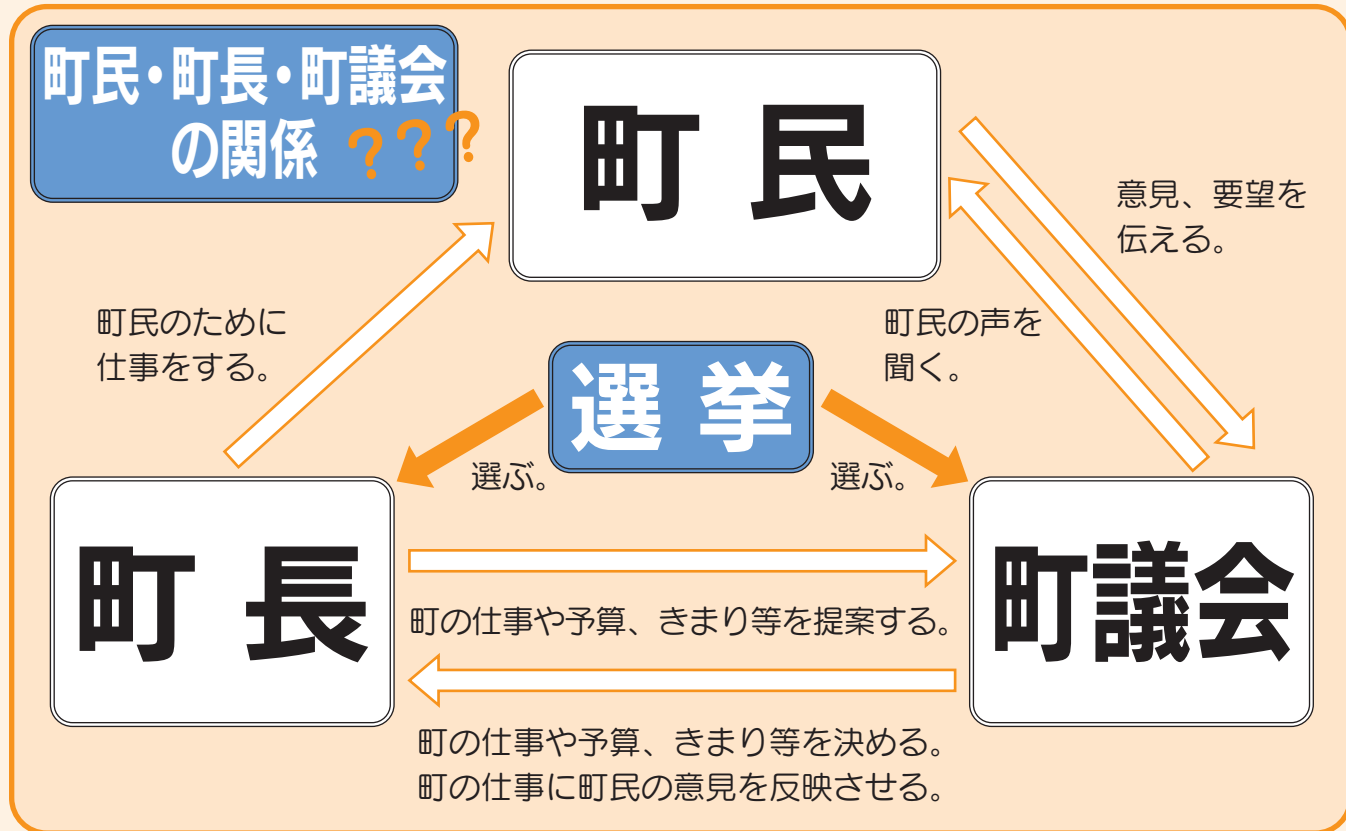
時松 唯一

北里 勝義

穴井 帝史

陳情採択に伴い、10月1日より施行される地球温暖化対策のための税を森林面積に応じて地方に譲与するよう求める意見書を国に提出しました。

# わかりやすい議会



## 町議会って何んすつコね?

～小国町を住み良い町にするために・・・? どうすればいいでしょう。～

町民みんなで話し合いをしながらまちづくりを進めるのが理想ですが、みんなで集まり話し合うのは大変ですよね。そこで20歳以上の町民が選挙をして、代表を選び、話し合いをすることにしているんですね～。

その代表の人たちが「町議会議員」、その議員の集まりを「町議会」といいます。

町議会は町民のみなさんの意思を反映させながら話し合い、どう町政を進めいくのかを決定します。町民、町長、町議会がお互いに協力しながら、町民の生活向上のために活動しています。

## 編集後記

今年、九州北部災害で被災されました方々に、心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興、復旧を願っております。我が町も災害が非常に多い地区であり、今後の災害対策にも重点を置き、町政に邁進するところです。

9月の定例会では23年度の決算が認定されました。

「決算は予算の鏡」ともいわれるとおり、今後には反映させ、よりよい町政へとがんばります。

わかりやすい議会にも示したように町民、町長、町議会と一丸となり、さまざまな課題を解決しながら、生活の向上に一段と活動してまいります。

広報特別委員長 渡邊誠次

## 広報特別委員会

委員長 渡邊 誠次

副委員長 梅木 隆志

委員 奴留湯 哲宣

委員 児玉 智博

発行責任者

高村 祝次